

東西言語類型の記述的・理論的研究

研究代表者 福田 一 雄

1. 分担者

福田 一 雄
山崎 幸 雄
船 城 俊太郎
三 井 正 孝
藤 石 貴 代
大 石 強
秋 孝 道
駒 形 千 夏
高 田 晴 夫
並 木 宏

2. 協力者・所属

成 田 圭 市	教育人間科学部准教授
本 間 伸 輔	教育人間科学部准教授
池 田 英 喜	国際センター准教授

3. 2007年度の研究活動の概要

東西言語類型に関わる基礎的研究について、以下の研究会で議論・検討を行った。

1. 新潟大学言語研究会・人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」・現社研「言語の普遍性と個性」共催

日時：平成19年5月11日(金) 午後5：00～

場所：総合教育研究棟A棟3F「学際交流室」

〈研究発表〉

福田一雄（人文学部）「ポライトネス理論におけるフェイスの概念について」

2. 新潟大学言語研究会・人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」・現社研「言語の普遍性と個別性」共催

日時：平成19年7月20日(金) 午後5：30～

場所：総合教育研究棟A棟3F「学際交流室」

〈研究発表〉

1. 中村隆志（人文学部）「“ケータイのディスプレイを見る行為”のコミュニケーション」

2. 戸出朋子（新潟医療福祉大学）「中学生のbeの学習における練習頻度と明示的学習の効果：事例基盤の第2言語学習の視点から」

3. 新潟大学言語研究会・人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」・現社研「言語の普遍性と個別性」共催

日時：平成19年10月31日(水) 午後5：30～

場所：総合教育研究棟A棟3F「学際交流室」

〈研究発表〉

1. マリーナ・エフレモア（現社研）「日本人およびロシア人日本語学習者の文章における結束性 — 接続関係の分析から見た学習者の日本語の不自然さ —」

2. 三ツ井正孝（人文学部）「いわゆる叙法副詞ドウモの意味」

4. 東西言語類型論研究会

人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」・科研プロジェクト

「英語の転移現象に関する統語構文論的・機能構文論的研究」（代表：秋孝道）共催、人文学部後援（研究推進のための学部長裁量経費）

日時：平成19年12月17日(月) 午後4：30～

場所：総合教育研究棟D棟3F「地域・国際交流促進室」

〈講演会〉

高見健一（学習院大学教授）「英語の〈場所句倒置構文〉 — 文中の位置と機能 —」

5. 新潟大学言語研究会・人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」・現社研「言語の普遍性と個別性」・現社研「フランス文化の諸問題に関する総合的研究」共催

日時：平成20年3月3日（月）午後5：30～

場所：総合教育研究棟A棟3F「学際交流室」

〈研究発表〉

1. 小杉美幸（人文学部4年）

「〈起点〉を表す格成分について — ヲとカラ —」

2. 駒形千夏（現社研）

「フランスの初等・中等教育における現代語教育」

3. 金 世朗（新潟大学非常勤講師）「日韓待遇表現法の対比」

4. 2007年度の研究成果の概要

東西諸言語の普遍性と個別性を明らかにする基盤研究として、各言語に見られる制約・原理を明らかにするための個別研究の蓄積を前年度から継続して行った。

5. 2007年度の研究成果の一覧

高 田 晴 夫

1. 著書：『Le Mot Composé:Étude contrastive de certains types de mots composés japonais et français』単著（仏文）2008年3月 Niigata University Scholars Series (NUSS) Vol. 8 新潟大学大学院現代社会文化研究科，総頁441 + xvii.
2. その他：「格と意味役割からみた合成語に関する若干の考察」単著2008年3月『平成19年度新潟大学人文社会・教育科学系プロジェクト経費「諸言語の格関係交替現象に関する統語機能構文論的研究」研究報告書』（代表：秋 孝道），5-12頁

大 石 強

1. 論文:「行為過程を修飾する副詞句」単著, 2007年12月『英文学会誌』(新潟大学)第30号, 59-76頁
2. 論文:「使役・起動交替の条件」単著, 2008年3月『言語研究の現在』東京:開拓社, 183-193頁

秋 孝 道

1. 論文:“Notes on the Existential Sentence with a Locative Expression in English”, 単 著, 2007年5月『Niigata Studies in Foreign Languages and Cultures』, No. 12, 21-28頁
2. 論文:“A Note on the Locational *There*-Sentence in English”, 単著, 2008年3月, 『The State of the Arts in Linguistic Research』Tokyo: Kaitakusha, 205-213頁
3. その他:『平成19年度新潟大学人文社会・教育科学系プロジェクト経費「諸言語の格関係交替現象に関する統語機能構文論的研究」研究報告書』(研究代表者:秋 孝道)共著, 2008年3月, 1-3頁

三 井 正 孝

1. 論文:「複合辞としてのニワタッテー その意味と共起条件」単著, 2007年4月, 『新潟大学国語国文学会』49, 1-28頁
2. その他:「複合格助詞をめぐる研究状況について」単著, 2008年3月, 『平成19年度新潟大学人文社会・教育科学系プロジェクト経費「諸言語の格関係交替現象に関する統語機能構文論的研究」研究報告書』(代表:秋 孝道) 51-63頁

福 田 一 雄

その他:「構文選択の動機と格関係交替現象 — 機能言語学の視点 —」単著, 2008年3月, 『平成19年度新潟大学人文社会・教育科学系プロジェクト経費「諸言語の格関係交替現象に関する統語機能構文論的研究」研究報告書』(代表:秋 孝道) 43-49頁